

第7期 pES club シナリオ 3

平成20年3月16日

聖路加国際病院 看護管理室

池亀 俊美

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

あなたは海老伝巢医科大学附属病院内科系病棟に勤務する2年目の看護師です。

信土井根津さん(72歳,女性)は高熱と食欲低下,全身倦怠感を伴うインフルエンザで入院中です。入院翌日の朝,受け持ちのあなたは信土井さんに挨拶をしに訪床しました。

あなた「信土井さん,昨夜は眠れましたか?」

信土井さん「熱も下がらないし,咳が止まらなかったもので,眠ったり起きたりでした」

あなた「そうですか?それはお辛かったですね。今日はこれから,胸のレントゲン写真を撮りに行くのですが,車椅子で行けそうですか?」

信土井さん「ええ,大丈夫ですよ。車椅子なら。でも,私はお部屋の外に出たりして,他の人にインフルエンザをうつしたりしないかしら?」

あなた「ご心配いりません。(自分をさして)このように私たちはマスクをしたり,手をよく洗っているから,うつったりしません。採血の時には手袋もしているでしょ。それに信土井さんにもマスクをしてもらって検査に行ってもらいますよ」

信土井さん「本当ですか?4人部屋だし,私のインフルエンザが他の人にうつったりしないか,気になっているんです。ここは換気も悪いようだし,乾燥しているから。実は,他の方に悪いから個室に移してもらおうか,ずっと考えていたんですよ。その方が思う存分咳もできるし,気兼ねしないで済むしね・・・」

あなた「お気遣いありがとうございます。でも,普通のインフルエンザなら個室に移るほどではないと思いますよ。個室の件は,病棟の師長と医師に相談してみますね」

あなたは,本当にマスクや手洗い,手袋が院内感染の予防になっているのか心配になり,師長や医師に相談する前にまずは自分で調べてみることにしました。

第7期 pES club シナリオ 3 (追加シナリオ)

平成20年3月16日

聖路加国際病院 看護管理室

池亀 俊美

東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

信土井さんは入院の前々日から 38℃台の発熱と関節痛、空咳がありました。が、病院にはかからず自宅にいました。入院してからは、熱でつらくて食事がとれないため、水分補給の点滴をしています。解熱剤はなるべく使用しないように主治医から指示されているため、5点クーリングを行っています。また、リン酸コデイン 20mg を頓服で使用するように指示が出ています。実は、ビール会社の営業課長をしている息子さんも現在、40℃近い発熱と咳で会社を休んでいるそうです。

信土井さんは10年前に市の健診で血圧が高いことを指摘され、5年前からアムロジン 5mg 分1 を内服し、現在は 130/86mmHg 程度で安定しています。食物や薬剤のアレルギーはありませんが、皮膚が弱く、アルコール綿で消毒すると発赤し、テープかぶれもしやすいそうです。

信土井さんは、息子さん夫婦と小学校2年生になる女のお孫さんの4人暮らしです。身の回りのことはほとんど1人でできますが、外出時に杖を使うことがあります。

信土井さんが入院した海老伝巢医科大学附属病院内科系病棟は、主に呼吸器内科、感染症科、内分泌内科の混合病棟です。信土井さんの病室は、以前は6人部屋として使用されていたものですが、現在は4人部屋で、隣のベッドとの間は約 3m、向かいのベッドとは 2m あり、カーテンで仕切られています。手洗いは、病室の入退出時、患者との接触前後、各処置の前後、手袋着用の前後に、病室の洗面所にある液体石鹸と流水での手洗いか、各部屋の前に設置されたウェルパスを用いた消毒を行うように決められています。また、あなたが勤務している病棟には、サージカルマスクと N95 マスクが常備されています。

現在、信土井さんと同じ病室には、糖尿病で教育入院中の 56 歳の主婦、喘息の初回発作でソル・メドロール 40mg 8時間毎の点滴静注を行っている 36 歳の OL、そして、酸素マスク 3L/分の酸素投与、ユナシン S 1.5g 1日4回の点滴、胃瘻から経管栄養を受けている 85 歳の肺炎の女性がいます。

病室からナースステーションに戻ってくると、ちょうど ICT ラウンドが行われており、感染症科の角利瀬代先生から、院内の感染対策マニュアルに従い、すぐに個室を空けて信土井さんに移動してもらうように指示されました。信土井さんにその旨を伝えたものの、個室料金が 1日 25,000 円であることを告げると、金額が高すぎると難色を示されてしまいました。